

## 追手門学院型 AP システムについて

追手門学院一貫連携教育機構長 梅村 修

追手門学院大学教育支援課 藤本 祥之

追手門学院一貫連携教育課 山本 直子

### はじめに～「連携」と「接続」のはざままで

追手門学院一貫連携教育機構長 梅村 修

今、高校と大学との間の広義の“関係”が問題になっている。一つは高校と大学の「連携」、もう一つは入試を中心とする狭義の「接続」である。本稿で扱う「AP 科目」は、この「連携」と「接続」のはざまにある制度である。その可能性を考えてみたい。

#### 1. 高大連携

近年、高校の教員と大学の教員が「連携」して教育活動を行う「高大連携」が大きな課題になっている。1990年代後半から行われるようになった「高大連携」は、年々活発になるとともに、多様化の様相を示しつつある。追手門学院でも、併設校での、大学教員のいわゆる「出前授業」や、併設校生徒のオープンキャンパスへの参加などが行われてきた。

たとえば、2012年度まで、入試課や旧・教育研究所が、茨木中高の総合学習の時間を使って、高校2年生を対象に「追大講座」を主催してきたし、2013年度には、一貫連携教育機構が音頭をとって、大手前中高の高校1年生を対象に、「大学での学び」と称する連続講演会を行った。追手門学院大学の各学部の先生が、それぞれの専門分野から、高校1年生が興味を持ちそうな話題を選んで、オムニバス形式で授業を運営した。

また、大手前中高に設けられた「追手門コース」に、経営学部の教員が派遣され、高校生を対象に「ビジネスマネジメント研修」を行い、商学の専門家の立場から店舗の設えや販売方法を指導したこともある。同年7月には、茨木中高の「立志塾」の生徒と「追手門コース」の生徒の合同授業が実施され、本学の大学生とグループディスカッションを行ったこともある。

さらに、併設校以外の近隣の高校との「連携」も図られている。たとえば、2013年度まで、「学び論C」は、併設校のみならず、外部の協定校（高槻市の大阪府立阿武野高校、および茨木市の大

阪府立茨木西高校)の生徒にも門戸が開かれていた。実際は、履修を希望する高校生が思うように集まらず、開店休業状態が長く続いたため、2013年度に廃止に至ったが、これはまさに、今年度から本格稼働したAP科目の前身であった。

なぜ、こうした「高大連携」が広がりつつあるのか。一つには、スーパーサイエンスハイスクールに代表されるような、優秀な高校生への知的啓発、また、もっと一般的には、大学の専門領域がどのような実態をもって展開されているかを紹介し、曖昧さを孕む高校生の進路志望を確実にするという目的がある。特に本学院のように、初等中等教育から大学院までを備える総合学園は、併設校の高校生に上の大学の魅力を感じてもらい、できれば内部進学を促したいという切実な希望がある。

## 2. 「高大接続」

一方、「高大接続」というと、高校と大学の教育プログラムの相互乗り入れや教員間、学生・生徒間の交流よりも、その先にある「入試制度」の文脈で語られる傾向がある。2018年から再び本格化する18歳人口の減少を目前にして、全国の国公立大学では、入学生確保のために、従来からの推薦入試やAO入試に加えて、様々な入試形態が生まれている。ここでも「高大接続」が受験生確保の有効な手段とみなされているのである。

たとえば、本学では、先ごろ「大学教育再生加速プログラム」に採択された「アサーティブ入試」が進行中である。「選ぶ入試から、育てる入試へ」をスローガンに、入試前から、大学職員が丁寧に受験生一人ひとりに向き合い、大学進学目的、進学先大学の選択理由を受験生本人に深く考えさせる。そして、学ぶ意欲を高め、偏差値という狭いものさしを超えて、自分の興味や適性に応じた進路選択を考える手助けをしている。「アサーティブ入試」は、学院の職員が親身に受験生の進路選択に寄り添うことで、追手門学院との縁を深めてもらい、結果的に多くの学生を追手門学院大学に招来することに成功している。

## 3. 追手門学院のAP科目

さて、追手門学院のAP科目であるが、本稿でもその足取りの中で紹介されるように、内部進学が決定している両併設校の高校3年生が、追手門学院大学の秋学期科目(中でも初年次に履修が推奨される科目)を先行履修して、単位を先取りするシステムである。その経緯や詳しいプログラムや成果については、本学のAP科目を精力的に推進した、本稿の共著者、藤本祥之、山本直子両氏のレポートに譲るとして、その特質について原理的な考察を加えておきたい。

冒頭で「AP科目は、『連携』と『接続』のはざまにある制度」と書いた。このことである。本学のAP科目は内部進学者、すなわち追手門学院大学への進学が決定している生徒を対象としてい

。したがって、将来の入試を見据えた大学選び（大学から見れば入学者選び）のための「AP 科目」では、そもそもない。ところが、北米であまねく行われている AP 科目は、そのほとんどが、必ずしも受験を前提としていないのである。あくまでも特定の大学と、選ばれた高校が連携し、大学の授業科目を、高校生と大学との「出会いの場」として提供しているにすぎない。したがって、高校生側がその大学を進学先として選ばない可能性もあるし、大学側がその高校生を入学生として選ばないこともあるのだ。聞けば、北米の AP 科目生は、大学の授業を受講しつつ、ときおり、大学のアドミッション・オフィスに赴き、担当の教職員から様々な指導を受けるという。たとえば、「君は本学の経済学部に進学するためには数理的な力が足りないから、基礎的な数学を復習するように」と参考図書が渡されたり、「あなたは読書量が足りないから、一週間に 2 冊は専門分野の論文を読むように」と図書館の司書に引き合わされたり、ということが日常的に行われるそうだ。まさに AP 科目という制度が『連携』と『接続』のはざまにあるわけだ。比べると本学の AP 科目は、疑似的な（という表現が適当でないならば過渡的な）産物であることは否めない。

将来的には、AP 科目を、本学のアサーティブ入試の発展形として、位置付ける必要があると私は考える。すなわち、現在のアサーティブ入試では、本学職員との事前面談を呼び水にして追手門学院大学に誘引しているが、そこにさらに「科目履修」というステップを入れ込むのである。そうすれば、受験生は本当の意味で追手門の真価を見定め、確信をもって追手門を選択する（もしくは選択しない）ことができるだろう。

2014 年度、本格的に始動した追手門学院大学の AP 科目は、受け入れ先の大学と、送り出し側の併設高校と、その間を取り持つ一貫教育課、この 3 者間の認識のずれや意欲の温度差が災いして、当初、ごたごたしたことは事実である。しかし、雨降って地固まる、という諺もあるように、結果的には、大学の授業マネジメントを見直す良い機会となり、また、AP 科目生を「追手門の子」として、高校と大学が手を携えて面倒を見るという体制が（たぶんに泥縄式ではあったものの）整備され、AP 科目を大学生と肩を並べて受講した高校 3 年生も、良くも悪くも貴重な大学体験の先取りができ、本当によかったと私は思っている。

なかでも、大学の入試課（アサーティブ係）が、AP 科目生の毎日の学修補助や、大学生活のアシストに関与して下さったことは、特筆すべきことだったと考える。

AP 科目制度が、ただの交流を目的とした「高大連携」で終わることなく、また、受験に特化した無味乾燥な「高大接続」で終わることなく、そのはざままで、AP 科目生の、追手門学院大学での大学体験を支援し、かつ、生徒の大学選びと大学の入学者選びに寄与する制度に育っていくことを、願ってやまない。

## 2014年度 AP システム実施のために 2013年度中に進められた準備について

追手門学院大学教育支援課 藤本 祥之

### 1. 2013年度実施の AP 科目

2013年度、大手前・追手門コースの3年生を対象とする AP 科目として、追手門学院大学で「学び論 C」が開講された。授業は90分×15コマで、7月22日・23日に各3コマ計6コマ、12月20日5コマと21日4コマの計9コマ、集中講義の形で実施された。授業内容は、7月が各学部・学科の学びの紹介、12月が追手門コース海外研修（2014年1月にシンガポールで実施）の事前研修であった。12名が履修し、このうち、追手門学院大学に入学した9名には2単位が認定された。

### 2. 2014年度 AP システム実施に向けた準備

#### (1) 大胆な高大接続を2014年から実施することになった経緯

2013年4月27日の大手前運営特別委員会で、大手前・追手門コースの生徒を対象に玉川学園をモデルとする大胆な高大接続（AP科目）を検討し2014年度実施に向けて準備を進めることが決定された。

さらにその後、茨木高・佐々木校長からの要望により、茨木・スポーツコースの生徒も2014年度実施の AP 科目の対象とすることになった。こうして、一貫教育課（担当：山本教育主事・藤本課員）が中心となり関係部署と連携しながら、2014年度 AP 科目実施に向けた準備が始まった。

#### (2) 玉川学園の高大接続（2011年当時の内容）

2011年8月に大阪城スクエアで開催された「玉川学園と追手門学院の夏期合同研修会」で、玉川学園教育部長の高島健造氏から、「ブランドを形づくる教育活動のあり方」と題する研究発表の中で玉川学園の高大連携プログラムが紹介された。

玉川学園高等部では、3年生の前期で高等学校の授業カリキュラムは終了し、3年生の後期から玉川大学進学予定者は玉川大学の授業を大学生と共に受講する。1週間のうち LHR（1時間）・体育（2時間）・自由研究（2時間30分）は高等部で授業を受け、体育祭などの高等部の行事にも参加するが、それ以外の時間は原則として大学の授業（＝「連携講義科目」）を合計16単位分受講することになる。玉川大学から提供される連携講義科目（すべて大学生と同時受講となる）は、年度によって異なるが、次のようなものである。

「アカデミック・ライティング」「ことばと文化」「イタリア語初級Ⅰ」「英語コミュニケーション」「スペイン語初級Ⅰ」「外国史」「総合英語Ⅱ」「総合英語Ⅲ」「中国語初級Ⅰ」「演劇史基礎」「現代演劇論概説」「造形メディア論」「美術論概説」「回路入門」「電気回路」「機械力学」「物理学 B（電気）」「宇宙科学」「化学入門」「科学技術史」「実践の物理学」「生活と科学」「生物学入門」「生命科学」「地球科学」「物理学入門」「国際関係論」「情報倫理と社会」「パブリック・スピーキング」「ロジック」「経済学」「現代と宗教」「現代総合研究 A」「国際関係入門」「国際機構」「社会学」「心理学」「人間の研究」「政治学」「比較文化論」「文化遺産」「数学入門」「代数学入門」「データ処理入門」「トータルプロダクション・マネジメント」「ネットワーク入門」「プログラミング基礎」「マルチメディア入門」「情報科学」

これらの連携講義科目は、「大学接続科目」と「大学選択科目」に分けられている。「大学接続科目」は、学部を問わず共通する基礎力の養成を目的とし、大学が指定する2単位×5科目＝10単位が必修となっている。「大学選択科目」は、2単位×3科目＝6単位を受講者が自由に選択できるようになっている。

連携講義科目の受講に先立ち、9月中旬に履修登録ガイダンスが実施される。さらに、履修登録ガイダンス実施前の9月上旬に平日8日間、特別講座「サマーセミナー」が実施される。「サマーセミナー」の内容は、語彙・読解力講座、文章表現講座、講話、大学リソースガイダンス、サマリーディング（大学の教材を使用した授業）などである。

連携講義科目は、大学と高等部の双方で認定される。B評価以上の科目については入学後に大学の単位として認定され、C評価以上の科目については高等部の単位として認定される。

### (3) 具体的な準備

玉川学園をモデルとする大胆な高大接続を追手門学院で実施する際の最大の問題は、高校の授業の単位認定であった。玉川学園高等部は大学と同じ前期・後期の二学期制で、授業の単位認定は学期ごとである。しかしながら、追手門学院の両高校は三学期制であり、授業は通年で単位認定は学年末である。追手門学院の両高校生が追手門学院大学で秋学期の授業を履修することになれば、高校の一部の授業は1学期だけで終了することになる。その場合の単位認定をどうするのか、という問題である。他大学・他校の事例も可能な限り調査したが、AP科目を実施している他の高校はすべて二学期制で、大学で履修する授業も1科目（2単位）もしくは2科目（4単位）であった。

玉川学園や他大学・他校の事例調査から、一貫教育課では当初、AP科目の単位を大学・高校の双方で認定する場合、大学での単位認定（試験の合格）をうけて高校が単位認定するものにとらえていた。

そのため、7月25日の茨木高との協議の中で茨木高の卒業式が大学の秋学期試験よりも前に举行されることが判明して以降、本学院で実施するAP科目は、大学での単位先取りのみとし、高校

での単位認定はしないという方向で準備を進めることとなった。

8月初旬の段階で一貫教育課がまとめた AP 科目の実施素案は以下の通りである。

①時期：2014年度 大学秋学期（高校2学期・3学期）

②対象：大手前・追手門コース生徒と茨木・スポーツコース生徒

③単位認定

1) 追手門学院大学への内部進学決定者に大学の授業を受講させ入学後の大学の単位として認定する（単位の先取り）

2) 高校での単位認定はしない

※「学校外における学修等」として高校で単位認定することは可能

④AP科目の単位数（科目数・大学での授業受講日数）

1) 学習指導要領で定められた高校卒業に必要な修得単位数は74単位（HRは除く）であるので、両高校とも、高3で残っている必修科目のみを通年履修し、他の科目については1学期のみの授業として2学期・3学期は大学でAP科目を受講する。

2) 大手前・追手門コース生徒は最大で週に5日（土曜日を含む）大学での授業受講が可能であるので、AP科目は最大で18科目（36単位）の受講が可能である。

3) 茨木・スポーツコース生徒は最大で週に3日（土曜日を含む）大学での授業受講が可能であるので、AP科目は最大で10科目（20単位）の受講が可能である。

この素案をもとに、一貫教育課は大阪府私学大学課の今井純司氏に相談し、方向性に問題がないかどうかの確認をとったところ、概ね問題はないとの回答を得た。ただし、AP科目を受講する生徒には別立てのカリキュラムが必要であり、カリキュラム案が完成し次第見せてほしいということであった。これを受けて、一貫教育課は8月下旬から11月の初旬にかけて両中高・大学との調整を進めていった。

この間に、教務課を中心に大学側のAP科目の開講準備も進められた。10月3日には教務委員会で次の原案が検討された。

①開講科目について

1) 1年次対象の秋学期開講共通課目をAP科目に設定する

2) 日本語事情科目・抽選科目・指定科目・国際交流科目は除く

②履修登録について

1) 1クラスあたりの受講高校生数は2名を上限とする

2) 大学から提示する開講科目一覧をもとに各高校が取りまとめた上で大学教務課に提出し教務課で調整・確認した上で履修登録する

3) 1名あたりの履修登録上限は18単位とする

③単位認定について

1) 大学生同様に期末試験を受験し成績を算出する

2) 修得した単位については入学後の本人からの届け出により修得単位として認定する

茨木高との調整の中では、スポーツコース生は2学期以降も5限目以降あるいは6限目以降クラブ活動に参加しなければならないので、大学でAP科目を受講できる時間帯が大幅に制約されることが判明した。その一方で、英数Ⅱ類の内部進学決定者もAP科目受講の対象とすることを検討することになった。また、AP科目の受講科目数は受講者が自由に選択できるようにして（受講しないという選択も可）、2学期以降も可能な限り高校での授業を受けさせたいという要望も出された。

11月14日の一貫連携教育推進委員会（高大会）では、一貫教育課が集約したAP科目開講準備の進捗状況を報告した〔資料1〕。

12月6日には、教育研究所の主催で「両中高・大学の懇談会」が大阪梅田サテライトで開催され、大学から11名、大手前中高から18名、茨木中高から14名、大学教務部・入学センター・教育開発センターから5名、教育研究所・一貫教育課から6名が参加した。当日は「高校側が考えるAP科目と大学側が考えるAP科目」というテーマで、第一部は一貫教育課・山本教育主事、大学・村上教務部長、茨木中高・岩本教頭、大手前中高・田中教務進学部長からそれぞれAP科目実施に向けた準備の進捗状況が報告され、第二部は7グループに分かれてのディスカッションが行われた。グループディスカッションでは、それぞれの立場から活発な議論が交わされ、AP科目に対する理解・認識の共有が大きく前進する機会となった〔資料2〕。

2014年3月6日には、大学・両高校・一貫教育課の担当者による連絡会議が開かれ、村上副学長（基盤教育機構長）、梅村一貫連携教育機構長、小板教務課長、木内大手前高教頭、田中大手前高教務進学部長、佐々木茨木高校長、浅野茨木高教務部長、山本教育主事、藤本一貫教育課員が出席した。ここでは、2015年度秋学期の大学時間割が提示され、開講されるAP科目の科目数と開講曜日・時間帯が確定した。また、茨木高のAP科目受講対象者を、当初予定していたスポーツコースではなく、英数Ⅱ類の内部進学決定者とすることが確認された。両高校で検討中のカリキュラム案についても報告された。当初は両高ともに「高校での単位認定はしない」方向で進んできたが、大手前高は、受講したAP科目の単位数にかかわらず高校で「学校外における学修等」（科目名は「大学研究」）として、大学の期末試験の結果とは別に生徒の出席状況やレポート等により高校側で独自の評価を行い、一括して8単位を認定するという形に変更した。

この段階でのAP科目開講準備の進捗状況を一貫教育課が集約し、3月12日の一貫連携教育推進委員会（高大会）で報告した〔資料3〕。

両高校のカリキュラム作成作業は、大手前高が先行しており、3月初旬から大阪府私学大学課の今井氏との間で具体的なカリキュラム案の確認を開始した。今井氏からの指導により、最終的に次

の2点について大幅な修正がなされた。

- ①受講した AP 科目の単位数にかかわらず高校で「学校外における学修等」(科目名は「大学研究」)として一括して8単位を認定する

〈修正〉「大学研究」は4単位とする

〈理由〉大学の授業は2単位=90分授業×15回=1350分であるが、高校の授業は1単位=50分授業×35回=1750分である。AP科目は6科目以上の受講となるので、大学で授業を受ける時間は1350分×6科目=8100分となる。これを高校の授業に換算すると、8100分÷1750分=4.6単位となる。

- ②2学期以降に高校で授業を受けない火曜日(7単位)・水曜日(6単位)の合計13単位分については、4つの科目を指定して1学期で授業を終了する。これらの科目のうち、3単位の科目は1単位として認定し、4単位の科目は授業数を補った上で2単位として認定する(合計5単位分を1学期分として認定する)。

〈修正〉上記4つの科目を、1学期と2学期以降を別の単位(科目)として設定して8科目とし、2学期以降の科目は選択履修とする。

〈理由〉年間を通じて3単位として設定している科目を1学期だけ独立させて1単位を与えることはできない。単位を与えるのであれば内容的な独立性が必要であり、別科目として設定することが最も適切である。

上記2点の修正を経て、3月17日に大手前高のAP科目対応カリキュラムは完成した〔資料4〕。一方、茨木高のカリキュラム作成作業は、大手前高と今井氏とのやりとりを踏まえた形で進められ、最終的に次の2点を修正することになった。

- ①AP科目受講の単位は高校では認定しない

〈修正〉AP科目を受講した場合、高校では「学校外における学修等」(科目名は「大学での学び」)として出席状況・レポート等を勘案して単位を認定する。「学校外における学修等」として認定する単位は、AP科目1科目(大学の2単位)につき1単位とする。その際、高校の授業時間としての不足分400分については、6月の大学説明会と事前のオリエンテーションで補う。

〈理由〉大学に生徒を任せて高校はまったく関与しない(生徒を放置している)ということになるので、高校側でも生徒の活動を評価して単位を認定すべきである。

- ②AP科目受講のために高校での授業(高3で残っている必修科目5単位以外のすべての科目が対象となる)を欠席する場合は公欠とし、当該科目の欠課時数には算入しない。すべての科目の授業は2学期も継続し通年で単位認定する(減単位しての認定はしない)。

〈修正〉 AP 科目受講時間と重なる可能性のある科目（必履修科目以外のすべての科目）を名目上別科目とし、元の科目の単位から 1 単位減して単位配当する。

〈理由〉 公欠扱いにするには問題がある。そもそも、学校がある科目の単位を認定するということは、学校は定められた時数の授業（1 単位 = 50 分授業 × 35 回）にすべて出席することを生徒に求めるということであり、大学の授業を受けるためであれば高校の授業には出なくてもよいと学校が認めることには問題がある。公欠ではなく欠席扱いも、学校が欠席を許可する形となるので論外である。AP 科目受講のために授業を欠席しなければならない科目については、別科目として設定し出席できる授業時数にもとづいて単位配当すべきである。

上記 2 点の修正を経て、4 月 2 日に茨木高の AP 科目対応カリキュラムも完成した〔資料 5〕。

以上が、2014 年度 AP 科目実施のために 2013 年度中に進められた準備の内容である。

注) 本文中の人名・所属・役職はすべて 2013 年度当時のものである

## 2014 年度 AP システム実践報告および次年度の検討について

追手門学院一貫教育課 山本 直子

### 1. 2014 年度 AP システム実施に向けた準備（4 月～8 月）

2014 年 4 月、いよいよ AP システム開始の年度となった。実施にあたり、AP システムの担当部署を確定し、受講する高校生の指導体制など詳細を詰めなければならないが、とにかく前例のない試みであるがゆえに、その確定は困難を極めた。

そのような中、福島副学長、梅村一貫連携教育機構長のご協力のもと、大手前高生の控え室が 5 号館 7 階中会議室に決まり、高校生に対する日々の指導は、志村入試課アサーティブ係、山本一貫教育課教育主事、また朝礼・終礼点呼は、表一貫連携教育研究所員が担当することに決まった。

大胆な高大接続・AP システムを導入するにあたり、ワンキャンパスではないということが大きな壁となる。キャンパス間移動には片道 1 時間を要するため、大手前高生が多くの科目を受講しようとすると、終日大学にいたることが余儀なくされる。AP として開講される科目は火曜日・水曜日が最も多いため、この両日を大手前高生の受講日に設定した。高校生の履修には人数制限があるため、茨木高生は、大手前高生が受講しない月曜日・木曜日・金曜日の 3 限（高校での 5.6 時間目）に設定した。

茨木高は大学と同キャンパスにあり移動に時間がかからないため、AP 生は午前中高校で授業を

受け、大学での AP 科目を受講後高校に戻って終礼を受ける。

大手前高生は火曜日・水曜日終日高校を離れて大学への登下校となるため、彼らの出欠管理や、履修人数制限によって生じる空き時間の指導の体制を万全に整えなくてはならない。そこで、控え室である大学5号館中会議室にて、表一貫連携教育研究所員が朝礼および終礼点呼を行い、火曜日の空き時間(課題研究)の指導は一貫教育課山本教育主事が、水曜日の空き時間(課題研究)の指導は、志村入試課アサーティブ係長が担当することになった。

これらの概略を、8月1日(金)一貫連携教育推進委員会・全体会にて審議、その結果を大学教育研究評議会、大学教授会、管理職会などで報告いただき、周知徹底のお願いして開始にこぎつけた。

## 2. 対象生徒確定から受講開始まで(9月1日～15日)

### 【スケジュール】

9月3日(水) 茨木高 内部推薦委員会(AP生候補者決定)

9月4日(木) 茨木高担任団より候補者に向けて説明会

9月9日(火) 大手前高内部推薦委員会(AP生決定)

9月10日(水) 両高オリエンテーション(大学にて)  
学生カード、履修登録用紙大学に提出

9月15日(祝) 学生証受け取り・茨木高大学授業開始

9月16日(火) 大手前高大学授業開始

茨木高は、9月3日(水)の内部推薦委員会において、追手門学院大学に専願で進学する生徒(AP科目候補生)が確定、翌4日に高校3年生の担任団より AP システムについての説明会を行い、受講について検討させ、数日後に AP 科目受講生が確定した。

大手前高は9日(火)の内部推薦委員会において、追手門学院大学に専願で進学する「追手門コース生」(AP科目受講生)が確定した、

大手前高生は火曜日・水曜日以外は高校授業があり学校を離れられないため、大学でのオリエンテーションの機会は、決定翌日の10日(水)にしかない。両校ともかなりタイトなスケジュールであった。

そこで大手前高では、事前に候補生徒にシラバスを印刷して配布し、受講希望科目を選択させ、それに従って大手前・追手門コース長の田中佳哉教諭が受講科目の人数制限を考慮して一人ひとりの時間割の作成を行なった。その時間割に従い、翌日のオリエンテーション時に本人が学生カードと履修科目届を記入し、大学に提出するのみとした。(資料6-1 6-2)今年度この時点での AP 科目受講生は、大手前高14名、茨木高9名であった。

しかし、大学教務課と両中高および一貫教育課の連絡・協力体制がうまく取れず、大学の履修登録システムが伝わっていなかったため科目選択に関する齟齬がおり、履修登録のやり直しが余儀なくされた。その際に、高校生に対する人数制限が教養ゼミ 2 名→4 名、大人数科目 4 名→制限なしと緩やかになったため、人数制限により受講できなかった茨木高の希望者 2 名が受講可能となり、茨木高の AP 生は 11 名となった。

大手前高生は、受講科目がなく空き時間となった時間を「課題研究」と称し、生徒それぞれが各自の課題を設定してそれについての研究を行うこととした。課題研究の時間は、火曜日・水曜日ともにそれぞれ 1 時間設けた。したがって大手前高生は、大学の授業を 2 時間受講し、控え室または PC 教室にて 1 時間の課題研究をするという 3 時間（1 限～3 限または 2 限～4 限）の時間割となったが、14 名中 4 名の生徒は、少しでも多くの単位を習得したいという希望を持ち、両日とも 5 限目の授業の受講を希望した。（資料 7）

AP 生の指導のために、大学での受講状況、課題・小テストなどを把握しようと、「AP 科目履修生日誌」を作成、日々の記録を取らせることにした。（資料 8）

オリエンテーションでは、まず大手前高生のみを集め、控え室の場所確認、前述の学生カード、履修登録用紙の記入ののち、日誌の配布と記入の方法などのオリエンテーションを行った。そののち、高校の授業が終わった茨木高生が合流し、両高共通のオリエンテーションを行った。（資料 9-1 9-2）両高とも自分の受講教室に足を運び場所の確認などを行ったのち、入試課アサーティブ係に作成いただいた「AP 科目受講許可書」を、梅村機構長より一人ひとり手渡していただくというセレモニーを実施した。

### 3. 2014 年度 AP 科目受講開始

AP 科目開始初日である 9 月 15 日は祝日。該当の茨木高は休日だが、大学は授業日であった。初日の混乱を避けるため、表一貫連携教育研究所員が、茨木高生の点呼および連絡調整にあたった。

翌日 16 日（火）から、大手前高生が受講開始。

1 限から受講する生徒は、9:15 に、2 限から受講する生徒は 10:45 に、5 号館 7 階中会議室にて朝礼。出欠点呼とともに生徒への訓話を行い、生徒一人ひとりの状況把握をした。また、各個人の AP 生日誌を配布し前週の授業内容および課題等の確認や、その日の予定を記入させた。さらに、各自ユニバーサルパスポートにログインさせ、休講・教室変更の有無を確認することを習慣とした。

1 限から受講する生徒は 3 限終了時に、2 限から受講する生徒は 4 限終了時に終礼を行い、その日の授業内容、課題等を日誌に記入させ回収、翌日（次週）の連絡を行った。

日誌、AP 生控え室用携帯電話など（中会議室は外線が繋がらない）AP 生の物品は、大学中央

棟1階の一貫連携教育機構室で保管した。

【配慮願い】

AP生は、高校での定期試験および体育祭・文化祭などの学校行事の際はそちらを優先させ大学での授業を欠席することになったため、校長名で「配慮願い」を教務課に提出し、教務課から担当の先生に連絡することになった。(資料10)

【気象警報の取り扱い】

また、台風などの気象警報による授業の扱いも高校とは異なる。当初は、大学の基準にあわせることにしたが、茨木高用のスクールバスの運休により登下校が困難となるため、気象警報の取り扱いは、高校の基準に合わせることにした。

【受講に関するAP生からのヒアリング】

AP生が大学の授業についていけるのか、問題はないのかなどについて、ヒアリングを行うことにした。秋学期期間中に、大手前校2回(2週目と5週目)、茨木校2回(3週目終わりと4週目終わり(書面にて))のヒアリングを行なった。

1回目のヒアリング、特に大手前高生は大学滞在時間も長く受講科目も多いため、様々なことに過敏に反応した。制服を着た高校生がAP生として受講することが大学内で周知されていなかったためか、どこに行ってもみんなに見られ、ヒソヒソと囁かれるや、担当の先生が高校生の受講をご存知なく驚かれたなどの発言もあったが、それに関してはすぐに慣れたようで大きな問題にはならなかった。

ほか、担当の先生が春学期からの継続履修生のみと思っておられたのか、いきなり教科書の途中から授業に入られ、教科書購入すべきであることも知らずにとまどったと聞いたので、急遽教科書が必要か否かについて調査し、購入させた。また、ユニバーサルパスポート(ユニパ)で学生自身が教室変更・休講等を確認するシステムになっているが、高校では携帯使用禁止になっているため生徒は高校と同じくスマホを使用せず、教室変更があったことを知らずに履修していない科目を1時間受講したなどのトラブルもあった。控え室である5号館7階中会議室はPC環境がなくユニパの確認もできないため、生徒の大学でのスマホ利用を可とし、同時に情報センターに相談しノートPC2台を控え室用として借りることにした。

しかし、AP生が最も驚いたのは、大学生の大教室での授業実態(授業中に携帯ゲームをする、大声で話をする、途中退出をする、ノートをまったく取らずに一斉に写メを撮るなど)であったようだ。

このようなAP生の声がきっかけで、原田教務部長から非常勤講師を含めた大学AP科目担当者に対するオリエンテーションが行われ、また、同時に教務課員がローテーションでAP生の受講科目の視察や、課題研究および単位習得に向けての指導体制を取る協力体制も生まれた。

このように、初期にはトラブルが多発したが、中には先生が「今日から高校生と一緒に授業を受けます」と紹介してくださったと喜ぶ声や、「私の授業は毎時間テーマについて調べてきたことを

前提に議論する」とのことなので厳しそうだが楽しみだ、「文系だったので数学は基礎しかやっていなかったが、とてもわかりやすかった」などという感想もあった。

第 2 回目のヒアリングは、AP 生の大学生生活も 1/3 が経過したころであったので、高校生たちは良くも悪しくも大学生生活に慣れ、大教室の授業崩壊を声高に言うこともなくなったが、教務課の視察によると高校生の授業マナーも悪くなった感もあるようだ。

また同時期に、授業担当の先生より AP 生が授業についてきていないようなので特別授業の機会を持ちたいという申し出があった。該当生徒 4 名に志村アサーティブ係長が同席したところ、先生がユニパに授業資料を掲載されそれを前提に授業や小テストが行われていたが、それを AP 生が知らなかったことが判明したため、改めて全員にユニパの使い方の連絡を行った。

#### 【PC 教室】

秋学期の前半は、控え室であった中会議室に情報センターから借りたノート PC 2 台を順番で使い、ユニパ確認や課題研究発表のためのパワーポイント作りを行っていたが、次第に授業発表やレポート等も増え、AP 科目履修生が PC を使うことが多くなったため、課題研究を PC 教室で行うようになった。

#### 【レポート、小テスト・授業発表の指導】

秋学期も半分を過ぎた頃から、レポートや小テスト、授業発表などを課せられる授業が増えてきた。高校と大学では学びの形態に差があるため、長文のレポート（3000 字～4000 字）を課せられ、どのように対処すればよいかわからず困難を極めた生徒も少なからず見受けられた。教務課、入試課アサーティブ係、一貫教育課より「課題研究」の指導人数を増やし、マンツーマンでの指導を行うことになった。

#### 【課題研究および発表会】

当初は、火曜日の課題研究を山本一貫教育課教育主事が、水曜日は志村アサーティブ入試係長が担当することにしたが、実際に始まってみると、水曜日 3 限には大学で設定されている授業が 2 科目しかなく、10 名の生徒が同時に課題研究を行う。他の時限と比べて細やかな指導体制が取りにくいと、森岡一貫教育課係長も指導体制に入ることとなった。

当初は「課題研究」は、生徒が自分の進路、興味分野に合わせて決定した課題について研究する時間であったが、結果的には生徒一人ひとりの状況を把握し、時には授業発表の下調べや授業時に提出するレポート作成、小テストの予習、内部推薦入試の面接対策、時には、生徒の入学後の進路相談から大学課外活動見学や大阪府警に内定した 4 回生に話を聞くなど、弾力的に運用することとなった。

課題研究発表会は、AP 生が所属する追手門コースのシンガポール研修が 2 月 4 日から始まることもあり、大学の 15 回の授業が終了してから大学の定期試験までのあいだの、1 月 21 日（水）となった。

発表順をくじで選び当日のスケジュールや役割分担が確定しつつあったが、その日が大学の補講

日であるため、AP生の多くが補講にあたり発表順を変更した。

発表はパワーポイントを用いて行った。1人7分の持ち時間を使い、自分の進路や興味のある事柄などをテーマで発表を行った(資料11)。

当日は、開会あいさつ、司会、タイムキーパー、閉会あいさつなど、すべて大手前AP生が行った。大手前高からも田中追手門コース長、クラス担任の立山教諭、大学AP生授業担当の先生、教務課や入試課員、副学長など、のべ25名の方にご来場いただいた。

#### 【大学の試験に向けての準備】

秋学期10回目の授業を過ぎた頃から、大学の試験(レポート)に向けての指導を始めた。まず、高校とは試験(評価)の形態が全く異なるので、生徒に「試験レポート日程表」を配布し(資料12)、試験がいつ行われるのか、定期試験中なのか授業期間中なのか、レポートなのか試験なのか、レポートは授業中に提出するのか教務課に提出用紙をつけて提出するのか、試験の場合は持ち込みの有無など、細かい情報や勉強の仕方について、授業終わりに先生のところに行き問い合わせをさせた。その情報を一貫教育課で一覧表にまとめ、指導の参考にした。

また、日ごろ顔をあわせて指導することができない茨木高生にも、茨木高PC教室にてユニバにログインさせ試験教室の確認や試験範囲など、大学試験に関するオリエンテーションを行った。(資料13)これと同時に、教務課でも大学の試験の受講についてのオリエンテーションが実施された。

#### 4. 両中高と大学教員懇談会

2014年12月16日(火)18時から、大阪城スクエアにてAP科目をテーマにした「両中高と大学の懇談会」を開催した。(資料14)

大学からは、特に今年度AP科目を担当していただいた先生や教務課員が出席、大学・両中高あわせて105名の参加であった。

当日は、話題提供として、山本一貫教育課教育主事から今年度のAP生の現況報告ののち、大学から米澤大学教務部事務部長、中高から浅野高校3年学年主任、大手前から田中追手門コース長の進捗報告があった。

そののち、11グループに分かれて「AP科目の現況と課題～来年度に向けて～」というテーマでグループディスカッションを行ったのち、各グループの代表が話し合われたことを発表した。担当者とそれ以外の教職員の温度差は否めない感がした。(資料15)

#### 5. 2015年度以降のAP科目に向けた検討

当初、担当部署もはっきりと決まらず、検討する会議体もないままのスタートであったが、一貫

教育課、アサーティブ係、教務課、一貫連携教育研究所が AP 生の指導にあたるなかで、担当者会議の必要性が認識され、やっと「AP 科目担当者会議」が発足した。しかし、この会議体は出席人数が多く 1 ヶ月に 1 度しか集まることができないため、実務者による「AP 科目ワーキンググループ」を発足させ、主に次年度の AP プログラムの詳細を詰めていくこととなった。2015 年 3 月までに、7 回担当者会議と 8 回のワーキンググループを開催した。

【次年度に向けて～今年度を踏まえた変更点など～】

### 1 意義の共有

今一度原点に戻り、AP 科目の意義を、大学両高の教職員、生徒、保護者の間で共有することが必要であるとの認識から、これを再検討することになった。

今年度は、両校とも「単位先取り」が意義の前面に出ていたが、初年度を経験するなかで、それはあくまでも結果であり、実は高校生の円滑な大学生活への移行が大きい成果であると痛感したため、「高大接続」を意義の中心に置くことになった。

AP システムを、半期かけて高校と大学の学修形態の違いを修得させると同時に、この大学で何を学び、どのような 4 年間で過ごし、それを将来にどう活かすのかというキャリア形成の機会ととらえる。またこのようなシステムを持つことができるのも、本学が総合学園であるが故であり、彼らを「学院の生徒・学生」ととらえ、両校と大学が総力をあげて指導する体制を組むことにした。また、大学入学後は、新入生をリードする学生になってほしいという期待をこの意義の文言にこめることとした。(資料 16)

### 2 課題研究に代わる次年度の「ガイダンス科目」(仮称)(以下資料 17)

今年度の「課題研究」は指導者も多く、結果的に弾力的で細やかな指導となったが、次年度以降、担当者がどのように変わっても運用できるシステムを構築するということが大前提となった。

そこで、今年度の「課題研究」を「ガイダンス科目(仮称)」と名前を代え、火曜日の 2 限に置き、大手前高(できれば追手門コース・AP 生の担任)教諭が、コーディネーターとともにその指導を行うという原案が出された。ガイダンス科目(仮称)のコーディネーターは、一貫教育課。その内容は、大学の先生によるレポートの書き方の講義や、職員によるユニパの使い方、面接指導やレポートやテスト対策など、4 月以降詳細を検討することになった。この時間は大学の科目認定はされないため、0 単位となる。

茨木高に関しては、AP 生が複数クラスに在籍するため、必修科目の都合上一斉に集めることができない。そこで、AP 生は試験がない中間考査・期末考査の最終日を利用して、集中ガイダンスを行なうことになった。

### 3 朝礼・点呼等の担当について

今年度は、一貫教育課、一貫連携教育研究所、入試課・アサーティブ係、教務課が AP 生の指導を担当したが、次年度は、AP 科目の意義も鑑み両中高にも積極的に参画いただくことになった。火曜日の朝礼およびガイダンス科目(仮称)は大手前の教諭、終礼点呼は教務課が担当。水曜日の

朝礼は茨木高の教諭が担当、終礼点呼は教務課が担当するという原案になり、2月13日（金）両高の校長同席のもと開催された AP 科目担当者会議で認定された。これは、AP システムは高大連携事業のひとつであり、生徒は『学院の生徒・学生』なので大手前高、茨木高、大学がそれぞれに力を出しあって指導するという認識によるものである。両高の教員には引率・朝礼点呼に要する時間を鑑み、高校での持ち時間 1 単位減の適用を検討いただくことになった。2015 年度はこの 1 単位減に伴う人件費は両高が負うが、この AP システムが「学院の生徒・学生」を育てるものであるならば、この両校合わせて 2 単位相当分の人件費を将来的には両校の予算に上乗せするなど、学院が負担すべきではないかという意見もあり、2016 年度以降の検討事項のひとつとなっている。

#### 4 受講までのスケジュール

今年度は、AP 生が決定してから受講が始まるまでのスケジュールがかなりタイトであったので、茨木高も今年度の大手前高と同じく、内部推薦委員会開催前に事前指導のかたちで候補者にシラバスを配布し、内部推薦（専願）が正式に決まった際には、大学で AP 科目受講をするのか、またどの科目を希望するのか等を決め、正式決定ののちは手続き書類の提出のみとし、スピードアップを図るという原案が出された。

これも、同じく 2 月 13 日（金）の担当者会議にて検討され、2015 年度のスケジュールが確定した。

#### 5 生徒への事前学習およびガイダンス

今年度は AP 科目を受講する生徒にのみガイダンスをおこなった。次年度もそれは必要であるが、1 学期 AP 生が決定する前に追手門学院大学内部推薦（専願）への誘導の意味も込め、該当クラスでの講演、授業などの事前学習を行いたい。これも 4 月以降の検討事項のひとつである。

### 最後に

1 期生の大学での受講が終った。AP 生は 4 月入学の新入生よりも大学のシステムや学びについて詳しく、また、何よりも内部生であるので追手門学院に対するロイヤリティを持っているので、新入生のリーダーになりうる素養があると信じている。

また、当初はうまく動かなかったこのシステムの担当者間の連絡・協力体制が、やっと構築されはじめた。AP 生を真ん中においてお互いが少しずつ越境し合って手を差し伸べ、太いパイプを築き、追手門学院のコアとなる生徒・学生が育てられるシステムとなることを心より願っている。

5. 大学側のAP科目の開講準備 ※大学教務委員会で開講が検討される (10/3)

- (1) 開講科目
- ① 1年次対象の秋学期開講共通科目をAP科目に設定
  - ② 日本語事務科目・抽選科目・指定科目・国際交流科目は除く
- (2) 履修
- ① 高校生が大学生とともに授業を受ける (1クラスあたりの受講高校生数は2名を上限とする)
  - ② 履修登録は大学から提示する開講科目一覧をもとに各高校が取りまとめた上で大学教務課に提出 → 教務課で調整・確認した上で履修登録する **(1名あたりの履修登録上限は18単位とする)**
  - ③ 大学生同様に期末試験を受験し成績を算出する
  - 修得した単位については入学後の本人からの届け出により修得単位として認定する
  - (3) 高校生が全員受講する科目 (高校生だけのクラス) も必要 ⇒ **秋期中**
  - (4) 大学の秋学期開始までに高校生対象のオリエンテーションが必要 ⇒ **夏休期中**
  - (5) 内部推薦入試の合格決定時期を秋学期開始よりも前に定める必要がある ⇒ **夏休期中**
  - (6) 茨木・スポートコース生徒が大学「スポーツキャリアコース」科目を受講できないか? ⇒ **夏休期中**

6. 高校側のAP科目実施の準備

- (1) AP科目受講生使用のカリキュラムと時間割の編成 → 学期変更の手続きが必要
- (2) 生徒の管理体制 ⇒ **夏休期中**
- ① 大学での授業受講は高校生活のルール内での学習活動として位置づける
  - ② 大学の授業を受講する生徒は各校の制服を着用する
  - ③ 大学の授業を受講する生徒は朝礼から終礼までの時間は大学敷地内で生活する
- 大手前・追手門コース生徒の朝礼・終礼・出欠確認 (担任と連携) は一貫進修教育研究所に依頼できないか?
- 茨木高の生徒の朝礼・終礼・出欠確認は高校教室で担任が行う
- (3) 大手前・追手門コース生徒の大学通学に必要な交通費の予算化
- ① 各自で通学 → 大学のスクーターバスを利用
  - ② 天淵橋～茨木中間の片道料金：阪急梅田線由は460円/地下鉄南河原町線由は490円
  - (4) 大手前・追手門コースのランガボール研修の扱い (休止か継続か)

※2014年度AP科目準備に際する一貫進修課と関係部との打ち合わせ

- ①07/25 (茨木高) 岩本教頭・渡野教務部長 (高3主任)
- ②08/23 (茨木高) 岩本教頭・渡野教務部長 (高3主任)
- ③09/9 (大学) 村上副学長 (生涯教育機構長)・梅村一貫進修教育機構長・小坂教務課長
- ④09/27 (大手前高) 木内教頭・田中教授兼学部長・土松高3追手門コース担任・立山高2追手門コース担任
- ⑤10/1 (大学) 朝川入学センター課長・梅村一貫進修教育機構長
- ⑥10/22 (茨木高) 岩本教頭・大橋教諭 (スポーツコース担当)
- ⑦11/2 (茨木高) 佐々木校長・岩本教頭・渡野教務部長 (高3主任)

資料1

追手門学院大学の併設高校からの内部進学者に対するAP科目開講準備に向けての進捗報告

2013.11.14 一貫教育課

1. 時期：2014年度 大学秋学期 (高校2学期・3学期)
2. 対象：大手前・追手門コース生徒と茨木・内部進学生徒 (検討中)
3. 実施形態
  - (1) 追手門学院大学への内部進学決定者に大学の授業を受講させ入学後の大学の単位として認定する
  - (2) 高校での単位認定はしない

※ただし【**学校外における学修等**】として高校で単位認定することは可能 ⇒ **夏休期中**

①茨木高の生徒は高校卒業式 (1月29日) 後に大学の期末試験 (1月30日から2月7日まで) を受験することになるため

②高校の教科・科目と大学の科目の関連付けが煩雑であるため

4. AP科目の単位数 (科目数・大学での授業受講日数)

- (1) 高校の単位・出席日数に関する規定
  - ①学習指導要領で定められた高校卒業に必要な修得単位数=74単位 (5Rは除く)
  - ②学習指導要領で認められた【**学校外における学修等**】の単位認定=36単位まで (大学での学修・履修を含む)
  - ③高校卒業に必要な出席日数に関する規定はない → 各学校が独自に設定
- ※単位については1単位時間を50分として36単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする

{ 高校の授業 1単位=50分授業×35回

大学の授業 2単位=90分授業×15回

(2) 大手前・追手門コース生徒と茨木・スポートコース及び英数I類生徒の修得単位数

①高2までの修得単位数

	高1	高2	合計	必修履修
大手前・追手門コース	34	34	68	6
茨木・スポートコース	28	28	57	17
茨木・英数I類	35	35	70	4

②高3で残っている必修修科目及び単位数

科目	単位	合計単位数
世界史Aまたは日本史A	2	5
体育	3	
体育	2	7
家庭基礎	2	
総合学習	3	

(3) AP科目の単位数 (科目数・大学で授業を受ける日数) ⇒ **秋期中**

# 一貫連携教育機構 NEWSLETTER No.29

この一貫連携NEWSLETTERでは、学生・教員のつながりを中心にお届けしていきます。

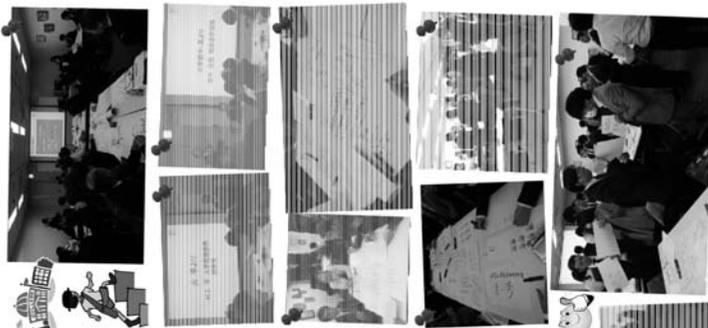


## 大学と面中の教職員懇談会

12月16日(月)、大学と面中の教職員懇談会が開催され、大学から11名、大手前中高から18名、茨木中高から14名、大学教務部・入学センター・教育開発センターから5名、教育研究所・一貫教育課から6名が参加しました。

大学と面中の教職員懇談会は、教育研究所の主催で2008年から始まりました。昨年までは同一キャンパスにある大学と茨木中高間の開催でした。今年は大手前中高も参加することになり、両キャンパス又から集える場所ということで、梅田サテライトでの開催となりました。

今回のテーマは「高校側が考えるAP科目と大学側が考えるAP科目」。AP(Advanced Placement)とは、高校生が大学の科目を履修し、大学が認定した単位については大学入学後に入学前取得単位として扱うという制度のことで、高大連携・高大接続の取り組みとして近年全国に広がっています。追手門学院大学では、2014年度に内部進学予定者を対象に大胆なAP科目(1年次秋学期に最大18単位)の導入を予定しており、現在、面中と調整しながら準備を進めています。懇談会では、それぞれの立場から活発な議論が交われ、AP科目に対する理解・認識の共有が大きく前進する機会となりました。



【問い合わせ・ご意見募集】  
面中中等部第一貫教育課(担当:山本)  
TEL 06-6942-2759  
FAX 06-6942-2089  
E-mail ikk@sumitomo-u.ac.jp

## 追手門学院大学の併設高校からの内部進学者に対するA.P科目履修準備に向けての進捗報告

2014.3.12 一貫教育課

1. 時期：2014年度 大学秋学期 (高校2学期・3学期)
2. 対象：大手前・追手門コースと茨木・英数Ⅱ類に在籍する生徒のうち追手門学院大学への内部進学決定者

### 3. 大学側のA.P科目の履修準備

#### (1) 開講科目

- ①1年次対象の秋学期開講共通履修科目をA.P科目に設定
- ②日本語専攻科目・抽選科目・指定科目・国際交流科目は除く

#### (2) 履修

①高校生が大学生とともに授業を受ける(1クラスあたりの受講高校生数は2名上限とする)

②履修登録は大学から提示する開講科目一覧をもとに各高校が取りまとめた上で大学教務課に提出

→ 教務課で調整・確認した上で履修登録する(1名あたりの履修登録上限は18単位とする)

③大学生同様に期末試験を受験し成績を算出する

→ 修得した単位については入学後の本人からの届け出により修得単位として認定する

④A.P科目の開講科目数(2014年度秋学期)

	月	火	水	木	金	土	
I 時限	9:30~11:00	4	4	4	4	5	0
II 時限	11:30~12:40	5	5	4	6	2	0
III 時限	13:20~14:50	2	5	3	2	2	2
IV 時限	15:00~16:30	7	3	9	2	5	

(3) 高校生が全員受講する科目(高校生だけのクラス)も必要 → **検討中**

(4) 大学の秋学期開始までに高校生対象のオリエンテーションが必要 → **検討中**

(5) 内部推薦入試の合格決定(内定)時期を秋学期開始よりも前に早める必要がある → **要検討**

### 4. 高校側のA.P科目実施の準備

(1) 高校の単位・出席日数に関する規定

①学習指導要領で定められた高校卒業に必要な修得単位数=74単位(注1は除く)

②高校卒業に必要な出席日数に関する規定はない → 各学校が独自に設定

※単位については1単位時間を50分として35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする

{ 高校の授業 1単位=50分授業×35回

{ 大学の授業 2単位=90分授業×15回

- (2) 大手前・追手門コース生徒と茨木・英数Ⅱ類生徒の修得単位数  
①高2までの修得単位数

	高1	高2	合計	学習指導要領で定められた高校卒業に必要な修得単位数(74単位)に不足する単位数
大手前・追手門コース	34	34	68	6
茨木・英数Ⅱ類	35	35	70	4

②高3で残っている必修科目及び単位数

大手前・追手門コース	科目	単位	合計単位	
			2	5
茨木・英数Ⅱ類	世界史Aまたは日本史A	3	2	5
	体育	2	3	
	体育	2	2	
	家庭基礎	2	2	5
	総合学習	1	1	

- (3) A.P科目の受講形態 ⇒ **大阪府私学・大学側に可否を判断中**  
 ①大手前・追手門コース生徒  
 ○火曜日・水曜日の2日間全日をA.P科目の受講に当てる  
 ○受講したA.P科目の単位数にかかわらず高校で「**学校外における学修等**」として一括して8単位を認定する  
 ※学習指導要領で認められた「**学校外における学修等**」の単位認定＝**36単位まで(履修計画を要しない)**  
 ○2学期以降に高校で授業を受けない火曜日(7単位)・水曜日(6単位)の合計13単位分については科目を指定して1学期で授業を終了する  
 ( 国語演習(3単位)  
   日本史B/世界史B(4単位)  
   日本史演習/世界史演習(3単位)  
   英語演習(3単位) )

- ※上記科目のうち3単位の科目は1単位として認定し4単位の科目は授業数を揃った上で2単位として認定する(合計5単位分を1学期分として認定する)  
 ②茨木・英数Ⅱ類生徒  
 ○火曜日・水曜日以外の曜日の午後(大学のⅢ時限・Ⅳ時限)をA.P科目の受講に当てる  
 ○受講科目は個人で選択する(受講しないという選択もある)  
 ○A.P科目受講の単位は高校では認定しない  
 ○A.P科目受講のために高校での授業(高3で残っている必修科目5単位以外のすべての科目が対象となる)を欠席する場合は公欠とし当該科目の次課時数には算入しない  
 一 つすべての科目の授業は2学期も継続し通年で単位認定する(就単位しての認定はしない)

- (4) 生徒の管理体制  
 ①大学での授業受講は高校生活のルーティンでの学習活動として位置づける  
 ②大学の授業を受講する生徒は各校の制服を着用する  
 ③大手前・追手門コース生徒はA.P科目を受講する日(火曜日・水曜日)は朝礼・終礼・出勤確認(担任と連絡)を行う ⇒ **大学側に担当部署・担当者を重ねる必要あり**

(5) その他の準備

①学期変更の手続き ⇒ **大阪府私学・大学側にカリキュラムの表記方法を判断中**

※当該コースのカリキュラム表にA.P科目受講者の単位認定の方法を注記する形で両高校統一する

②内部推薦入試の学内手続きのスケジューリング検討

⇒ 大学秋学期の授業開始(9/15)に間に合うように校内選考を終わらせる

③大手前・追手門コース生徒の大学通学に必要な交通費の手算化

○各自で通学 ⇒ 大学の学生タームバスを利用

○バス通学 ⇒ 茨木市間の片道運賃：阪急梅田線由は460円/地下鉄南森町線由は490円

※4月1日以降運賃改定予定

《2014年度A.P科目準備に関する一貫教育課と関係部署との打ち合わせ》

- ⑦725 (茨木高) 岩本教頭・浅野教務部長(高3主任)
- ⑧823 (茨木高) 岩本教頭・浅野教務部長(高3主任)
- ⑨349 (大宇) 村上副学長(教務教育機構専任機構長)・梅村一貫連携教育機構長・小松教務部長
- ⑨347 (大手前高) 木内教頭・田中教務部長・上松高3追手門コース担任・立山高2追手門コース担任
- ⑩101 (大宇) 朝賀入学生センター課長・梅村一貫連携教育機構長
- ⑩102 (茨木高) 岩本教頭・大隅教諭(スポーツコース担当)
- ⑩112 (茨木高) 佐々木校長・岩本教頭・浅野教務部長(高3主任)
- ⑩116 (梅田7714) 大学・両高委員協議会
- ⑩316 (大宇) 村上副学長(教務教育機構専任機構長)・梅村一貫連携教育機構長・小松教務部長・田中  
大手前高教務部長・佐々木茨木高校長・浅野茨木高教務部長





追手門学院高等学校学則一部改正(案)

資料5

(下線部は改正箇所)

u003cbr>

学 年		教 育 課 程 (G3期生)											
		1年		2年		3年		1年		2年		3年	
学 科	目 録	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ
		国語総合④	6	6	4								
現代文 4				2	2	2	5	4					
石 典 4				2	2	2	5	4					
総合現代文				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選①				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選②				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選③				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選④				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑤				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑥				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑦				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑧				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑨				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑩				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑪				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑫				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑬				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑭				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑮				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑯				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑰				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑱				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑲				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選⑳				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉑				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉒				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉓				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉔				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉕				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉖				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉗				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉘				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉙				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉚				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉛				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉜				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉝				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉞				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㉟				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊱				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊲				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊳				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊴				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊵				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊶				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊷				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊸				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊹				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊺				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊻				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊼				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊽				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊾				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古文選㊿				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選①				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選②				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選③				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選④				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑤				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑥				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑦				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑧				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑨				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑩				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑪				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑫				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑬				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑭				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑮				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑯				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑰				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑱				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑲				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑳				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉑				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉒				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉓				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉔				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉕				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉖				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉗				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉘				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉙				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉚				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉛				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉜				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉝				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉞				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㉟				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊱				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊲				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊳				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊴				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊵				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊶				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊷				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊸				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊹				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊺				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊻				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊼				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊽				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊾				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選㊿				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選①				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選②				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選③				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選④				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑤				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑥				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑦				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑧				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑨				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑩				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑪				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
現代文選⑫				2	2	2	2	2					



資料6-2

2014年度 追手門学院大学特別受講生・履修科目届



—高大連携プログラム—

2014 年 9 月 10 日

ふりがな 氏名			
所属高校	追手門学院大 手前	年 組	高等学校 番
	担任教諭名	連絡先	
授業コード	曜日	時限	授業科目名 担当教員

学籍番号	※ I 4 R E
高校側受付印	大学側受付印
受付印	受付印

※ 大学教務課使用欄

資料6-1

2014年度 追手門学院大学特別受講生学生カード



—高大連携プログラム—

写真は2枚提出

ふりがな				年	月	日
氏名				性 別	男 女	
生年月日	年	月	日	電話番号(自宅・自室・呼出)	— — —	
現住所	〒	都府 道県	市 郡	携帯番号(任意)	— — —	
			寮・荘・方 号	メールアドレス(任意)	— — —	
所属高校	追手門学院高等学校			年 組	— — —	
	担任教諭名	連絡先				

写真貼付欄

3ヶ月以内に撮影した  
たもの写(サイズ  
4.0×6.0cm)

学籍番号	※ I 4 R E
高校側受付印	大学側受付印
受付印	受付印

※ 大学教務課使用欄

表 17

AP科目 実習者一覧表

月	火			水			木			金		
	授業科目名	授業科目名	実習者名	授業科目名	授業科目名	実習者名	授業科目名	授業科目名	実習者名	授業科目名	授業科目名	実習者名
I	市民社会と政治2	市民社会と政治2	米原 謙	5203 河井, 神戸	5203 河井, 神戸	野村						
	日本国憲法(心理学社会)	日本国憲法(心理学社会)	上野 圭	5101 坂野, 弘田	5201 坂野, 弘田	上野 圭	5201 坂野, 弘田	5201 坂野, 弘田	5201 坂野, 弘田			
	メディア論B(経営・マーケティング・英語・英語文化)	メディア論B(経営・マーケティング・英語・英語文化)	越野 去	2402 浦野, 五老海	2402 浦野, 五老海	山本 博史	2402 浦野, 五老海	2402 浦野, 五老海	2402 浦野, 五老海			
	経営コミュニケーション(交渉学入門2)	経営コミュニケーション(交渉学入門2)	田上 正能	4304 野村, 大野	4304 野村, 大野							
II	経営ゼミ2(経済学専攻・情報経済)	経営ゼミ2(経済学専攻・情報経済)	山本 博史	4304 藤田	5102 藤田, 神戸	5102 藤田, 神戸	5102 藤田, 神戸	5102 藤田, 神戸	5102 藤田, 神戸			
	経営ゼミ3(経営学専攻)	経営ゼミ3(経営学専攻)	伊藤 三三	5104 北村	2110 藤野, 坂野	2110 藤野, 坂野	2110 藤野, 坂野	2110 藤野, 坂野	2110 藤野, 坂野			
	メディア論C(経営・マーケティング)	メディア論C(経営・マーケティング)	久田 英志	3301 坂野, 竹内, 大野, 藤田	2108 藤野, 藤田	藤口 隆一	2108 藤野, 藤田	2108 藤野, 藤田	2108 藤野, 藤田			
	経営の科学2(経営・心理・社会学)	経営の科学2(経営・心理・社会学)	西本 薫弘	5004 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	小島 由子	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見			
III	人間性学	人間性学	藤水 雄介	6101 弘田, 五老海	経営ゼミ2(広義の経営学)	藤野 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋
	日本語表現A	日本語表現A	石田 英英	6102 北村	経営ゼミ2B	藤口 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
	経営ゼミ2C(経営・国際経営)	経営ゼミ2C(経営・国際経営)	植田 隆一	3106 坂野	経営研究	野村 孝一	6102 坂野, 藤田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
	経営ゼミ2D(経営・マーケティング)	経営ゼミ2D(経営・マーケティング)	桂 香子	4008 田井	経営研究	藤口 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
IV	経営ゼミ2A(経営・マーケティング)	経営ゼミ2A(経営・マーケティング)	藤田 隆	3302 藤田, 藤田	人間性学2A	藤口 隆一	3106 坂野	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋
	経営研究	経営研究	藤野 三郎子	4511 藤田, 藤嶋	経営ゼミ2B(経営・マーケティング)	藤口 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
	経営ゼミ2E(経営・マーケティング)	経営ゼミ2E(経営・マーケティング)	藤田 隆	3302 藤田, 藤田	経営ゼミ2C(経営・マーケティング)	藤口 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
	経営研究	経営研究	藤野 三郎子	4511 藤田, 藤嶋	経営ゼミ2D(経営・マーケティング)	藤口 隆一	トコナガ 弘田	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	石田 徹	6101 山上, 田中
V	近現代日本社会と学際2	近現代日本社会と学際2	大野 紀子	5300 藤田	人間性学2B	藤口 隆一	3106 坂野	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋
	生活と地理2A	生活と地理2A	藤田 隆	3302 藤田, 藤田	人間性学2B	藤口 隆一	3106 坂野	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋
	経営学入門2A	経営学入門2A	井上 由	4004 藤田	人間性学2B	藤口 隆一	3106 坂野	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋
	経営学入門2B	経営学入門2B	井上 由	4004 藤田	人間性学2B	藤口 隆一	3106 坂野	5200 伊原, 磯見	5200 伊原, 磯見	人間の文化や生活・社会・経済・文化・芸術・科学・技術・環境・倫理・政治	山田 徹史	5200 藤野, 藤嶋



【資料カ】  
2014.9.10

追手門学院大手前高校 AP 科目オリエンテーション

9月10日(水) 15:00  
1号館3階 会議室3A

\*編修科目届記入

\*オリエンテーション出席者紹介

大手前中高・追手門コース長 田中 佳哉  
一貫進修教育機構 機構長 梅村 修  
一貫進修教育研究所 表 弘之  
大学・入試課アサーティブ係 志村 知美  
一貫進修教育機構 濱積 祥子  
一貫教育課 山本 直子

1 大手前高より

①受講スケジュールについて

火曜日・水曜日 全日

(注意) 7/923(祝)授業あり、10/15(水)体育祭のため受講不可、10/21(火)、

22(水) 中間考査のため受講不可、11/4(火)、5(水) 大学祭のため休講

12/9(火) 午前 期末考査のため午前中受講不可(午後からは受講)

・1 限登校者 8:45 バス

・2 限登校者 10:00 バス (JR、阪急とも) に乗ること

・必ず秋学期終了まで受講し、試験を受ける。合格者は入学後申請し、単位認定される

②出欠点呼について

・登校時、下校時とも必ず控え室(5号館7階中会議室)に行き、朝礼・終礼を受ける

こと。ここで出欠を確認するので、直後教室に行ったり、下校してはならない。

・AP科目出欠は、高3の遅刻数、欠席数としてカウントされる。

・欠席遅刻連絡は8時より0分までに、保護者から担任(立山先生)に入れてもらうこと。

・体調不良等の場合は、必ず担当者(後述)に連絡すること。勝手に早退してはならない。

・毎日、別紙「日誌」を記入すること。日誌は朝礼時に配布し、下校時に回収する。

・課題研究は、控え室で行なう。必要に応じて図書館等での研究を行なうこともある。

【受入れ担当】

点呼

9:15 1 限前朝礼点呼(表)  
10:45 2 限前朝礼点呼(火曜日山本・水曜日志村)  
15:00 3 限終了下校点呼(火曜日山本・水曜日志村)  
16:40 4 限終了下校点呼(表)

・課題研究対応

2 限(火曜日山本・水曜日志村)

3 限(火曜日山本・水曜日志村)

4 限(火曜日のみ 山本)

③その他、受講に関して

・制服を着用すること

・学校⇄大学交通費(450円×2)は、通学した日数分を月末にまとめ、翌月15日までに返込む

2 AP科目担当より

① AP科目受講日誌について

・毎回、AP科目受講日誌(別紙)を記入し、終礼点呼時に提出すること

② 課題研究について

授業のない空き時間は、各自が設定する課題研究をすること

2月に各目的の課題について発表をする機会を設ける

3 浪本高 AP科目受講生とともに

① 授業出欠確認システム(カードリーダー)について

② 学内オリエンテーション(教番番号の尻方)

NOの最初の数字は○号館

2番目の数字は○階

5605 → 5号館6階の教室

2014.11.12

一貫連携教育機構NEWSLETTER No.45

# 一貫連携教育機構 NEWSLETTER No.45

この一貫連携NEWSLETTERでは、学・校・園のつながりを中心にお知らせしてまいります。



## 高大連携AP科目が始まりました!!

9月15日(月・祝)より、追手門学院大学に内部推薦入試で進学予定である茨木10名、大手前(追手門)2114名の高校3年生が、大学の秋学期の授業を受けています。

茨木の生徒は、月曜・木曜・金曜の3限目、大手前の生徒は、火曜・水曜の1限～5限目を受講しています。

彼らは、大学生と一緒に学期末試験を受け、合格すれば、大学入学後に単位認定を受けることとなります。少しでも多くの単位を取得したいと、5限目まで意欲的に受講する生徒も多くいます。

大手前の生徒は、大学5号館7階の学生会室を控室にし、空き時間に図書館なども利用し、各自の定める課題を研究しています。

制服を着用して受講しているため、一目で高校生とわかります。是非通かい目でご指導ください。



### 小学生が大学「キャンパルナイト」に 絵画で参加!

大学では、学生と教職員による協働企画・運営で、冬のキャンパスを彩る光のイベント「キャンパルナイト」を毎年開催しています。第6回目となる今年は、自分自身のアイデンティティを思いつけた、どの思いから「Life is...」しぶんの灯をさがしに「I」がテーマです。

10月8日(水)小学校の課外活動・美術クラブに、大学キャンパルナイトスタッフである心理学部4年生・森本さん、社会学部4年生・下田さん、経営学部3年生・上原さん、職員・福井さんが来校。美術クラブの児童たちに、キャンパルのエンターテインメントとなる白い紙袋に絵を描いてもらいました。

小学生たちは、サンタクロースやトナカイ、クリスマスツリーなどをカラフルに描いていました。12月10日(水)小学生の作品にキャンパルが灯るのが楽しみです。



【お問合せ・ご寄附先】  
 初等中等第一貫教育課(担当:山本)  
 TEL 06-6942-2789  
 FAX 06-6942-2089  
 E-mail ikkacampus@ecampus.net

### 資料②

2014.9.10

追手門学院高校 AP 科目オリエンテーション

9月10日(水) 15:00  
 1号館3階 会議室3A

### \*オリエンテーション出席者紹介

- 一貫連携教育機構 機構長 梅村 修
- 一貫連携教育研究所 表 弘之
- 大学・入試課アサートイブ係 志村 知美
- 一貫連携教育機構 清瀬 祥子
- 一貫教育課 山本 直子

### 1 受講スケジュールについて

- 月曜日・木曜日・金曜日の3限
- \*9/15(祝)授業あり、10/13(月)中間考査、11/6(木)、7(金)公費制推薦入試のため休講、11/24(祝)授業あり、12/4(水)、5(金)期末考査
- ・必ず全15回受講し、大学の試験を受ける。合格者は入学後申請し、単位認定される

### 2 授業出欠確認システム(カードリーダー)等、教務課のプリントについて

- 学生証 9月12日(金)終礼時 担任より配布される
- ユニバーサルバスポートのバスワードについて

### 3 学内オリエンテーション(教室番号の見方)

- NOの最初の数字は○号館
- 2番目の数字は○階

5605 → 5号館6階の教室



2014年10月9日

追手門学院高等学校  
 学校長 住谷 研

教務部長さま

下記追手門学院高校AP科目受講生に關しまして、高校の行事および試験のため、大学の授業および試験を受けることができない日があります。ご配慮のほど、お願い申し上げます。

秋庭 涼  
 宮脇 祥  
 山上 紗佑佳  
 堂野 晃宏  
 橋本 祥  
 樋井 那於  
 金子 小夏  
 尾崎 真良  
 田中 志徳  
 栗田 新一朗

以上10名

【追手門学院高校AP生が、大学授業受講できない日】

10月13日(月) 中間考査  
 12月4日(木) 期末考査  
 12月5日(金) 期末考査  
 1月29日(木) 卒業式

2014年10月10日

追手門学院大手前高等学校  
 学校長 木内 尊詞

教務部長さま

下記追手門学院大手前高校AP科目受講生に關しまして、高校の行事および試験のため、大学の授業を受けることができない日があります。ご配慮のほど、お願い申し上げます。

五老海 佑二郎  
 磯見 太良  
 大野 順也  
 亀田 吉彦  
 神戸 祐史  
 河井 隆太  
 坂野 和紀  
 柴田 侑宣  
 漣野 珠弘  
 野村 泰嗣  
 北村 志保  
 杉原 幸奈  
 竹内 梨乃  
 弘田 風紗

以上14名

【追手門学院大手前高校AP生が、大学授業受講できない日時】

10月15日(水) 終日 体育祭  
 10月21日(火) 午後 中間考査  
 10月22日(水) 午後 中間考査

2014年度 追手門学院AP生

### 秋学期末試験スケジュール管理表

追手門学院高等学校

		1/6(火)	1/7(水)	1/8(木)	1/9(金)	1/10(土)
1/11(日)	1/12(月・祝)	1/13(火)	1/14(水)	1/15(木)	1/16(金)	1/17(土)
1/18(日)	1/19(月)	1/20(火)	1/21(水)	1/22(木)	1/23(金)	1/24(土)
1/25(日)	1/26(月)	1/27(火)	1/28(水)	1/29(木)	1/30(金)	1/31(土)
2/1(日)	2/2(月)	2/3(火)	2/4(水)	2/5(木)	2/6(金)	2/7(土)

資料1

### 2015年度第1期大手前AP生 課題研究発表会

日時:2015年1月21日(水) 13:30~15:40  
場所:大学5号館 7階 中会議室

#### 研究テーマと発表順

発表順	発表者	発表テーマ	所属
1330	階級の発表	大野	
1	瀬野	タイトル	岡山
2	北村	ヘルメット、今、昔	杉原
3	杉原	過疎地域の活性化について	
4	亀田	水産物の品質	
5	堀野	ハンドの書き方について	
6	朝見	旅行会社の課題	
7	森田	日本・世界の警察 Future business	北村・神戸
8	五宅海	留学の意義	
9	大野	長瀬の広瀬橋	河井・野村
10	野村	へーにについて	
11	神戸	警察官への非難被害者仕事~	坂野
12	竹内	CA~竹葉茶と日本の比較~	
13	河井	ウーハにまつわるお金の話	
14	弘田	スターバックス~その人気の秘密~	竹内
1535	階級の発表		

第1期大手前AP生14名が、大学での授業の空き時間を利用して、

いま自分たちが興味を持っていることや、

将来進もうとしている進路について研究を行いました。

今回、それを発表させていただきました。

拙い研究発表ではありますが、一生懸命取り組みましたので、

よろしければ、ぜひいらしてください。

資料 13

AP1 期生の誇りをかけて、  
いざ！自分との戦い！

### 追手門学院大学 定期試験の心得の要点

- ◆ 定期試験実施期間  
1月22日(木)、1月27日(水)～1月31日(土)、2月2日(月)  
予備日：2月3日(火)  
※ 気象警報発令、その他の理由により秋学期末試験が実施できなくなった場合の  
振替日です。
- ◆ 定期試験の時間帯

時限	試験時間
I 限	10:00～11:00
II 限	11:20～12:20
昼休み	
III 限	13:00～14:00
IV 限	14:20～15:20
V 限	15:40～16:40

- ◆ 受験上のルール
  - (1) 受験に際しては、必ず学生証を携帯しよう！  
万が一学生証を忘れた場合は、試験開始前までに教務課教務・基盤教育係まで！
  - (2) 試験の際は、指定された席で受験すること！
  - (3) 試験開始5分前には指定の座席に着席すること！
  - (4) 試験終了まであきらめずがんばること！
  - (5) 服装目標の学部・学科・学号番号・氏名は、ボールペンで記入しなければならぬ。
  - (6) 試験場では携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電源を切ること！
- ◆ 定期試験に代わるレポート
  - (1) 「定期試験に代わるレポート」は定期試験を教室内で受験する代わりに、テーマを決めてレポートを課すものです。授業の中でレポートを書いていた場合であっても、定期試験に代わるレポートがある場合がありますので、UNIVERSAL PASSPORT の「試験時間割」機能で確認しましょう。
  - (2) 「定期試験に代わるレポート」の提出内容（テーマ、用紙の種類、枚数、提出期間等）  
→ 試験時間割発表日に学生証添付で発表。（UNIVERSAL PASSPORT には、科目と提出期限のみ掲載となりますので、必ず掲示板で提出内容を確認しよう！）
  - (3) 提出期限を過ぎたレポートは一切受け付けてもらえません！  
→ レポートを提出する際は、「レポート提出票」をあらかじめ作成して、書いたレポートの表紙に  
ポチキキスし、レポートの受付期間中に教務課にある「レポート提出ボックス」に提出してく  
ださい！

自分の信じる、自分を信しろ！

## 2014年度秋学期試験対策ノート

<授業名>	<AP生 氏名>
先生の名前： 先生	
<成績評価方法> ※シラバスを見て記入する。 変更がある場合は、その内容もきちんと聞くこと！	

### 成績評価について

#### 試験の場合

##### ◆ 試験の日時について

試験期間 / 授業期間中
<試験のある日>
月 日 :

##### ◆ 試験範囲について

できない / できる
<持ち込み可能なもの>

#### レポートの場合

##### ◆ テーマと分量について

<テーマ>
<分量>

##### ◆ 提出先と締切について

<提出先>	教務課 / その他
<締切>	月 日 :

★2015年1月6日の試験範囲発表表にも要注意！★



- ・茨木中高…浅野真一郎 教諭
- ・大手前中高…田中佳哉 教諭

3. グループ・ディスカッション

「AP科目の現況と課題～来年度にむけて」

- 4. 成果発表
- 5. 総括 (佐々木実 常務)
- 6. 閉会のあいさつ (梅村修 一貫連携教育機構機構長)

資料14

2014年11月14日

教職員各位

一貫連携教育機構  
機構長 梅村 修  
進手門学院中等高等学校  
校長 住谷 研  
進手門学院大手前高等学校  
校長 木内敦詞

茨木中高、大手前中高、大学の懇談会についてご参加のお願い

日頃より、教育研究所の活動、研究にご協力賜り、誠にありがとうございます。  
さて、教育研究所では、毎年、恒例になりました「高校と大学との懇談会」を、一貫連携教育機構・基盤教育機構、向中高との共催で、下記のように開催することになりました。6年目を迎える今回は、会場を権田サテライトに移し、「AP科目の現況と課題～来年度に向けて」というテーマで行いたいと考えております。茨木中高、大手前中高、大学からの教職員が一堂に会して、懇談する機会はめったにありません。学院の一貫・連携の教育活動に関心を抱かれる、すべての教職員のご参加を呼びかけます。

記

日時：2014年12月15日 16:30～18:00

場所：進手門学院 大阪権田サテライト

テーマ：「AP科目の現況と課題～来年度に向けて」

内容：

1. 閉会のあいさつ (梅村修 一貫連携教育機構機構長)
  2. 話題提供 (司会：一貫教育課・山本直子教育主事)
    - (1) 2014年度のAP科目の概況…山本直子教育主事
    - (2) 2014年度 秋学期 AP科目の進捗報告
- ・大学…原田章 大学教務部長



2015年度追手門学院APシステムについて 案Ver.02/15 資料17

1. APシステムの意義について (図)Otemon Bridge Education構想 (詳細は別紙参照)

総合学園・追手門学院の教育理念を具現化させることを目的とし、両高等学校から大学にかけて実施する追手門学院の「高」をつなぐ教育。単位を先取りし、大学の学びへのスムーズな移行を意義とする。

2. 対象生徒およびAP受講生決定の日程

- ◆2015年度APシステムの対象
    - ・追手門学院高等学校3年生  
立派コニエ在籍者のうち、専願で追手門学院大学へ内部進学が決定した者
    - ・追手門学院大手前高等学校3年生  
追手門コース在籍者のうち、専願で追手門学院大学へ内部進学が決定した者
  - ◆2015年度AP受講生決定(高校内での会議)
    - ・追手門学院高等学校 2015年 9月3日(木)
    - ・追手門学院大手前高等学校 2015年 9月7日(月)
- 【備考】内部進学入試出願日 2015年9月25日(予定)

3. AP科目の開講期間と開講科目および履修制限

- ◆開講期間
  - 【第1週】 2015年9月14日(月) ~ 【第15週】 2016年1月19日(火)
  - 【定期補講期間】 2016年1月20日、21日
  - 【試験期間】 2016年1月22日(金) ~ 1月30日(土) 【成績発表】 2月18日(木)

◆開講科目

大学1年次対象の秋学期開講基礎教育科目のうち、学部長の推薦を受けた講義科目及び少人数・双方向型科目。ただし、日本事情科目、教養ゼミと英語コミュニケーションを除く(指定科目、プロジェクトを除く指定科目、国際交流科目は除く。)

◆履修単位数制限

1名あたりの履修登録上限は18単位とする。

◆履修人数制限

・大人教養形式の科目には、制限を設けない。  
・「教養ゼミ」表現コミュニケーションは最大4名までとする。  
→ 最大で24名編成となる。

4. 両高等学校における高校単位認定の措置

両校とも、学習指導要領で認められた「学校外における学修等」として、学期に定められた高校単位(茨木は「大学での学び」として大学履修単位数に順じて1~3単位、大手前は「大学研究」として4単位)を認定する。

◆追手門学院高等学校

・AP科目受講のために、高校での授業に出席しない場合は、そのかわりに「大学での学び」で高校単位を修得することとなる。ただし、高校での全ての授業は通年で単位認定することとなるため、高校の定期考査を受ける必要がある。

◆追手門学院大手前高等学校

・2学期以降に高校で学修しない単位は、科目を指定して1学期で授業を終了し、その単位を修得する。

-1-

5. APシステムにおけるAP科目受講の形態と役割分担について

追手門学院高等学校		追手門学院大手前高等学校	
集合・点呼	火	集合・点呼	水
大学310教室		大学310教室	
10:20~10:40		大手前教員による引継および点呼・朝礼	茨木教員による点呼・朝礼
1~4限 高等学校にて授業		ガイダンス科目	大学2コマ目 AP科目受講
5・6限 (大学3コマ目) AP科目受講		大学3コマ目 AP科目受講	
高等学校にて終礼		大学4コマ目 AP科目受講	
		教務課窓口にて終了報告	

◆受講の形態について

追手門学院高等学校のAP受講生(茨木AP生) 月・木・金の高校5・6限(大学3コマ目)にAP科目を受講する。  
追手門学院大手前高等学校のAP受講生(大手前AP生) 火・水の大学2, 3, 4コマ(場合によっては5コマ目も)にAP科目を受講する。  
火曜の大学2コマ目はガイダンス科目を履修する。(大手前校追手門コース担任も同席)

→ 履修科目は、2015年度開講科目に基づく自由選択によるが、2015年度の履修科目の半生のため、予めセレクトされた履修科目のメニューの中から選択されるが、2015年度開講科目が確定後に履修し、選択することとする。

◆各部署における役割について

- ・一貫教育課(一貫連携教育機構)
  - (1)追手門学院APシステム全体の統括と推進
  - (2)両中・高等学校と大学教務課との調整と連絡
  - (3)AP受講生の出席管理とAP科目学習指導
  - (4)各講義のオンラインセッション、ガイダンス科目のコーディネート

・追手門学院高等学校

- (1)茨木AP生への連絡・対応および出席管理
- (2)大手前AP生の朝礼・出席管理(水曜)
- (3)茨木AP生の集中ガイダンス科目自習の参加

・追手門学院大手前高等学校

- (1)大手前AP生への連絡・対応
- (2)ガイダンス科目(ホームルーム)への参加
- ・大学教務課

◆入試課(一貫連携教育機構)

- (1)『大学生活オリエンテーション』『大学施設等の利用説明など』、『AP科目受講者オリエンテーション』『ユニバ利用の説明など』、『大学試験対策ガイダンス』(大学試験の指導など)の「ガイダンス科目」時における実施。
- (2)大手前AP生の終了報告および追手門学院高等学校校体校時の朝礼・点呼
- ・入試課(一貫連携教育機構)
- (1)AP生へのフォロー。(入試課アサーティブ係と一貫教育課との連携・協力は別に定める。)

-2-

7. ガイダンス科目 (仮称) について →「科目」という文章は能力ない呼称を検討。<案>Bridge Study
- ◆ガイダンス科目 (仮称) の趣旨  
「高等学校までの学び」と「大学での学び」のスタイル変化による衝撃を和らげるため、主として大学教員によるガイダンス科目を設ける。内容は授業の受け方やノートとり方、大学での学びの進め方、具体的なレポート作成指導など、大学側には得られないが、カリキュラムやシラバスに補完されない弾力的な運用が可能。また、この時間を利用して、いわゆるホームルーラム的な指導を行い、大学での学びへのモチベーション向上と持続につなげる。  
→ 一貫教育課、その他担当部署により、十分なコーディネートが必要。
  - ◆実施概要  
追手門学院高等学校 茨木AP生  
毎週決まった時間を確保することが難しいことから、集中講義的に実施する。  
【実施時期(予定)】 10月17日(土)午前 (2学期中間発表 最終日)、12月5日(土)午前 (2学期期末発表最終日、その他高校の都合のつく日)を検討する。  
追手門学院大学手前高等学校 大手前AP生  
【実施時期】 毎週火曜 大学2コマ目 大手前のAPシステム担当教員が同席する。
  - ◆内容 一貫教育課が教務課、両高校に意見を伺いながら、内容や日時をコーディネートする。  
<例(案)> ・教員によるレポートの書き方 ・教務課による大学生活オリエンテーション  
・情報メディア課による学内PCの使い方 ・AP科目で課された小レポート作成  
・高校教員による内部推薦入試対策 など

8. APシステム全体スケジュールについて(案)

(土曜)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
6月上旬 選考委員会にて推薦要項の最終報告	7月10日? 選考委員会による関係生員への調査?	7月14日 大手前AP生選定ガイダンス科目 【AP科目受講希望オリエン】	7月17日 茨木AP生選定ガイダンス科目	7月18日 大手前AP生選定ガイダンス科目	7月19日 茨木AP生選定ガイダンス科目	7月20日 大手前AP生選定ガイダンス科目	7月21日 茨木AP生選定ガイダンス科目	7月22日 大手前AP生選定ガイダンス科目
6月8日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月10日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月11日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月12日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月13日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月14日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月15日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月16日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)	6月17日 追手門学院大学DOC (内部推薦入試開始後)
11月10日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月11日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月12日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月13日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月14日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月15日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月16日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月17日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	11月18日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】
12月15日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月16日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月17日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月18日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月19日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月20日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月21日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月22日 茨木AP生選定ガイダンス科目	12月23日 茨木AP生選定ガイダンス科目
1月10日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月11日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月12日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月13日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月14日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月15日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月16日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月17日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月18日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】
1月22日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月23日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月24日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月25日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月26日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月27日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月28日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月29日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】	1月30日 大手前AP生ガイダンス科目 【大学試験対策ガイダンス】

6. その他について
- ◆AP生の大学までの交通費(一貫教育課で対応)  
大手前AP生…2014年度と同様、大学への送迎回数に応じて、天満橋 茨木市間の電車賃を一律支給。  
茨木AP生…高校スクールバス運休時の、自宅隣寄駅から茨木市あるいはJR茨木までの電車賃を支給。
  - ◆水曜日の大手前AP生の出勤管理  
・茨木教員と一貫選考教育機構職員による朝礼、点呼を実施。(大学3103教室にて)  
・出勤状況は一貫教育課へ連絡。一貫教育課は大手前の担任と連絡を取り合い、AP科目開講中の出勤を管理。  
・遅刻者は、教務課へ大学に到着した旨を申し出てから、大学の授業へ参加する。  
(遅刻が発生した場合は、一貫選考教育機構職員が、朝礼点呼後、教務課へ報告する。)  
・大手前AP生は、両日とも、その日の講義がすべて終われば、大学教務課へ行き、終了報告を行ったのちに下校する。
  - ◆大手前AP生の大学内控え室  
・休講発生時や、授業が早く終わってしまった場合、昼食を摂る必要がある場合は、大学3号館3103教室を使用する。
  - ◆AP生の大学での生活  
・服装について  
⇒茨木AP生、大手前AP生とも、大学内では制服着用とする。  
・大手前AP生の昼食について  
⇒弁当持参するか大学食堂を利用して摂る。  
・携帯電話について  
⇒講義については、授業内で教育的に活用される可能性もあるため、対応については協議を要する。  
⇒茨木AP生は、高校と同じ待参・使用を禁止とする。大手前AP生は、必要に応じて使用を許可する。ただし大学コンセンサス・PCを用いての充電は緊急の場合を除き、禁止とする。  
・AP科目開講日に発生した教室変更や休講について → 毎回の確認は、手帳か?  
⇒茨木AP生は、AP科目受講の前に必ず2号館前教務課掲示板を確認した上で受講する。大手前AP生は、朝礼時に各自携帯端末からユニバーサルバスポートで情報を確認する。  
・気象警報発令時の対応について  
⇒両高校の学期に依り、その際のAP科目欠席については高校行事による欠席と同じく「公欠的欠席」として処理する。(一貫教育課と教務課にて処理する。) →要当か?  
◆成績発表とAP科目単位の大学単位への読み替え  
・成績発表は2016年2月18日、AP生は自身で成績を確認し、一貫教育課へ連絡。  
・一貫教育課は両校頭のIDでユニバにログインし、全AP生の成績を照会。成績発表日に両校担当へ報告する。  
・取得単位は、教務課にて大学単位として一括して読み替える。ただし、本人が、修得成績に不本意があった場合、申請により単位の読み替えを辞退することができる。  
◆プロジェクト科目は、その性格・内容によっては高校生にマッチしないものもあるため、どの科目をAP科目とするかは、教務課で判断する。また、教養ゼミは、履修希望の大学生の数によって開講・不開講が決まるため、万が一、不開講の科目が発生した場合は、AP生が履修できないことがある。  
◆AP科目受講許可証およびAP科目学生証  
受講者内々定後、一貫教育課が許可証発行。初回のガイダンス科目時に学生証とともに授与。  
なお、学生証は学生課にて発行。(APシステム修了後は返却。)

9. AP受講生確定、履修登録、AP科目履修開始まで(案)	
追手門学院高等学校	追手門学院大手前高等学校
●二学期始業式 8月25日	●二学期始業式 8月27日
AP受講生内々定者対象 ガイドス	※1 9月 1日 ?
学生カード・履修科目届 事前確認	一貫教育課と面談が担当で実施。面談において、推薦委員会まで、AP科目受講希望願とAP科目履修希望願を、内部推薦内々定者に対して実施。 ⇒ 推薦委員会後、直ちに連絡できるよう事前準備。
APシステム受講生確定 推薦委員会	9月 7日(月) 16:30~ <予定>
学生カード・履修科目届 教務課へ提出	※2 9月 8日(火) 午後 高校⇒一貫教育課⇒教務課
学生カード 教務課から学生課へ提出	9月 9日(水) 午前
学生課にて学籍登録完了 学生証発行	9月 9日(水) 午後
教務課にて履修登録完了	9月11日(金) 午前
情報メディア課にて ユニD処理完了	9月14日(月) 午前
ガイドス科目第一回 受講許可証と学生証を授与	※3 9月14日(月) 午前
AP科目 第一講	9月15日(火) 午前

- ※1 AP科目受講生になる可能性のある生徒に対して、APシステムの意義、AP科目のシラバスなどを説明し、推薦委員会までAP科目受講者の学生カードと履修科目届を作成。(一貫教育課・面談)
- ※2 9月8日(火)の午後には第一回目のガイドスを実施。その場で学生カードと履修登録カードを完成・確認させて、教務課へ提出。
- ※3 9月14日、若本高校3年は午前中で文化祭片付けとHR(13:00~13:00)をこなす。午前中の片付けなどを配慮していただき、その他高校生とは別で直前のAP科目ガイドスを実施。その後、午後のAP科目第1講に参加。  
なお、9月14日までの間で、ガイドス科目を取ることも計画する。  
若本・大手前とも開講までの間に3回のガイドスを確保することができる。  
(案) 若本:9/7~9/13の間に①、9/14午前②  
大手前:9/8午後①、9/15午前②(←ガイドス科目第1講)